



# 八幡支援学校だより

第 14 号

平成 22 年 12 月 20 日発行

八幡市内里柿谷 16-1

(2 学期報告号)

## 充実した 2 学期を終えることができました



11 月 23/24 日の「たけまつり」では 200 人を超える方々に参加していただきました。八幡市 NPO 法人「とんかち」様には、モニユメントの「竹灯籠」を製作していただき、「和っ鼓」様には力強い和太鼓演奏で楽しませていただきました。

今年 4 月に開校し、1 学期は毎日の学校生活を足固めした八幡支援学校も、2 学期に入り、本格的に教育活動を展開しました。

猛暑で始まった 2 学期。9 月 30 日までプール学習を延期し真新しいプールは大活躍でした。

9 月当初には、大丸京都店で「ふれあい心のステーション」が開催され、本校も「竹製品」を中心に販売しました。接客を学びながら、自ら製作した製品を自信をもって販売している生徒たちの姿が印象的でした。



11 月 16 日には、八幡市自立支援協議会主催で本校を会場に「就労フォーラム」が開催されました。本校も全面的に協力し、作業学習も見学していただきました。参加者は 80 名を超え、企業関係者は 30 社も参加いただき、地域全体で障害のある人の就労を考え、一歩踏み出す大事な取組となりました。

高等部では、職場実習や就労に向けた学習に粘り強く取り組み、その結果、3 年生は、既に企業や福祉事業所への内定や、職業訓練所への合格する等の成果に続いて、全ての生徒の希望に基づく進路実現に向けて 3 学期の最終段階に入ろうとしています。



スクールパートナー（京都八幡高等学校）との交流も一段と進展し、同一敷地内の南キャンパスとの「昼休み交流」は週 3 回に増え関わりも深まっています。また、「行事交流」も文化祭と体育祭に参加をしました。体育祭では、高校生が折った「万羽鶴」を記念にいただきスロープに飾っています。





「授業交流」も始まり、高等学校の8つのコースと各学部が交流をしました。本来の授業のねらいにしていたことが、一層深まったり、広がったりしている事が感じられ、交流を通して得られることが沢山あることに気づくことができました。

「3学期にももっと交流したい」との声もたくさん聞かれてうれしいかぎりです。



京都八幡高等学校との交流だけでなく、10月には、八幡市の小学校特別支援学級と本校小学部の児童が「なかよし交流会」を行い、12月はじめには、地域の中学校の特別支援学級と本校中学部の生徒が交流会を行いました。これからも末永く継続・発展させたい交流が次々と始動しました。

地域の自治会との交流もできました。野菜の苗をいただくだけでなく、一緒に苗植えまで教えていた



だきました。随分大きくなり3学期には給食の材料に使ってもらえるのではと楽しみにしています。

「たけまつり」は、八幡支援学校の学校祭です。地域とつながる「まつり」、一緒に創り上げる「まつり」、みんなが一つになる「まつり」を目指し、皆様の御協力で想定を超えた成果が達成できたと思っています。

各学部からは音楽やダンスなどの発表がありました。どの学部も「たけ」をテーマにした工夫一杯の発表でした。一つを紹介しますと、中学部のグループ発表では、長さの違う竹筒をセメントブロックに当てて、音を出す「コンチク」という楽器で『かっこう』などを演奏してくれました。素朴な心地よい音で体育館がつつまれました。

八幡支援学校の初めての「たけまつり」。子どもたちと保護者と皆様が一つになって、しっかりと地域に根づいた行事になったことを実感しました。

3学期は、今年1年を振り返り成果と課題をまとめながら、次年度の準備を滞りなく進めていきます。

地域の皆様方には、開校から今日に至るまで、変わらぬ温かな御理解と御支援をいただきありがとうございました。来年も引き続きよろしく願いいたします。



上：たけちゃん・のこちゃん登場 下：PTAの発表では、「ありがとう」の歌、そして、「AKB48」の「あいたかった」のダンスに子どもたちの目にもしっかり美しさが焼きつきました。